

## 消 息

## 鵜飼信一先生のご定年退職にあたって

私たちが敬愛する鵜飼信一先生は古希を迎えられ、本年3月末日をもって早稲田大学をご定年退職されます。大学の定めとはいえ、早稲田大学の発展、教育・研究両面の充実に大きな足跡を残された先生をお送りすることには、一抹の寂しさを感じざるを得ません。

鵜飼先生は1949年東京都に生まれ、1967年3月都立小石川高等学校卒業後、早稲田大学商学部に入學されました。1971年4月同大学大学院商学研究科修士課程に進學され、引き続き博士課程に進まれました。学部学生時代は本間忠彦先生の商法特殊研究のゼミで学ばれ、大学院においては林文彦先生の経済統計演習に所属され研究にあたられました。その後、社会工学研究所や三菱総合研究所において、地域開発や地域産業振興戦略、大手製造業および中小製造業のコンサルティング業務に従事され、1986年4月早稲田大学商学部専任講師として嘱任されました。1988年4月に助教授、1994年4月に教授に昇任され、30年以上の長きにわたって商学部の教壇に立たれました。この間、おもに中小企業論、統計学、英語経済学などの授業を担当されました。

大学の管理・運営面では、2004年10月から2006年9月まで産業経営研究所所長を務められました。所長就任時は学術院体制の発足と重なり、商学学術院内での研究所のあり方を検討されるとともに、産業経営研究所と当時のWBS研究センターの統合問題に着手されるなどご苦労が多かったことと思われます。また、早稲田実業学校副校長(1994年から1996年)、早稲田大学インキュベーション推進室長(2010年から2014年)などもお務めになりました。

鵜飼先生のご専門は中小企業論と経済統計です。鵜飼先生はシンクタンク勤務時代から40年間、毎年50件以上の町工場を訪ね歩かれ、個々の事例から中小製造業の技能・技術、創業と後継、熟練形成などを考察されました。とくに中小製造業が集積する大田区、墨田区、葛飾区、台東区、荒川区、足立区、北区、川崎市、日立市、燕市、北上市、

花巻市、釜石市などを調査され、中小企業と地域特性との関係、産業振興のあり方を分析されてきました。製造業の小規模企業を対象に多くの著作や論文を残され、1994年に上梓された『現代日本の製造業—変わる生産システムの構図—』は、日本のリーディング産業であった機械工業のダイナミズムの根源を中小企業がもつ加工技術の進化に求め、転換期にあった生産システムの将来をみとおす分析をされています。同書の中では中小企業の事業継続意欲の源泉に触れられ、機械工業の生産システムの変化の方向について現在につながる卓越した示唆を与えておられます。

先生の研究の特徴は、ものづくりに関わる経営者や熟練技能者に着目した部分です。この中で先生は、経営者がもつ技能や技術を頼りに自己責任で自分の家族や従業員を支える経営スタイルを、「生業の論理」もしくは「生業資本主義」と表現されています。また、技能や技術の進化に余念がなく、ものづくりに対する真摯な姿勢の根底には「熟練動機」があるとされています。これは、経営者や熟練技能者の心情を克明に読みとった従来にないユニークな分析であり、中小企業が存立する本質的な側面を明らかにしています。中小企業の経営者や熟練技能者の心情を探った研究は、多くの経営者から共感を得、経営意欲を高める契機にもなっています。なお、ここでみた一連の研究成果は近著『日本社会に生きる中小企業』にまとめられています。

鶴飼先生は中小企業振興の現場でも活躍されました。国や地方自治体の審議会などの委員を度々務められ中小企業振興政策の立案に参画されるとともに、産業支援型NPOものづくり品川宿の理事長として中小企業振興の陣頭指揮も執ってこられました。また、公益財団法人本庄早稲田国際リサーチパークが設置した本庄早稲田塾塾長として、中小企業経営者向け講座「ビジネスリーダースクール」を運営されました。これらの活動をおして多くの中小企業の経営者や中小企業で働く人びとを勇気づけ、背中を押してきたことも先生の大きな功績です。

1987年、私は当時専任講師であった先生の英語経済学を受講しました。直訳すると意味が通じない部分が多い難解な英文でしたが、丁寧に解説してくださった先生の姿を思い起こします。また、先生は「ウエイトリフティングの鶴飼」としても知られています。2002年から2018年まで部長として部を率い、合宿にも参加し、ときに選手とともに汗を流すという指導方針を貫かれました。このような指導が輝かしい戦績の基礎になっているものと思われます。市ヶ谷のご自宅から大学まで両足首に錘を付けて往復さ

れるなど、ご自身を鍛えることも欠かしませんでした。学部にあつては同じ系列の教員として、また、私の相撲部長時代には部長経験者として、さまざまなアドバイスをいただきました。さらに、毎週木曜日昼休みに障害者が製造したパンをゼミ生とともに販売するという活動も展開されました。学内外の多くの人びとから慕われた先生ですが、これは先生の他者への思いやりや配慮ゆえと思います。

研究や教育のみならず、大学の管理・運営など多方面で貢献された先生であるだけに、これからもご指導いただきたいことは多々あります。商学部に残された者は、先生の思いを大切に引き継ぎながら、大学や学部の発展に努めたいと考えています。先生がご健勝にお過ごしになられることをお祈りするとともに、今後とも私たちをお見守りくださるようお願い申し上げます。おわりに先生の主要な業績を紹介します。

#### 単著

『現代日本の製造業—変わる生産システムの構図—』新評論，1994年2月（工商総合研究所 1994年度中小企業研究奨励賞本賞受賞）

#### 共著等

『中小企業の先端技術戦略』（第2章，第6章），新評論，1991年3月

『人手不足と中小企業』（共編著，第6章，終章），新評論，1992年4月

『中小企業と地域インキュベータ』（第1章），新評論，1993年1月

『テクノポリスと地域産業振興』（第4章），新評論，1994年1月

『モノづくりと日本産業の未来』（第3章），新評論，2000年2月

『日本社会に生きる中小企業』（編著，第1章，第2章，第3章），中央経済社，2018年10月

#### 分担執筆

「誘致大工場群と中小企業」，『地域産業の振興戦略』新評論，1990年3月

「中小企業の生産システム」，『中小企業の経営戦略』綜合法令，1992年12月

「企業の形成と経営者」，『地方産業振興と企業家精神』新評論，1996年2月

「小規模企業からみた製造業」，『成長の持続可能性』東洋経済新報社，2005年7月

「見直される国内生産のメリットと中小企業」, 『モノづくり次世代への飛躍—若手とデジタル化が支える中小機械工業—』 国民生活金融公庫総合研究所編, 2005年

## 論文等

- 「中小機械工業の新展開(1)—機械工業の構造変化と中小企業—」, 『ベンチャーフォーラム』 研究開発型企業育成センター, 44号, 1986年11月
- 「中小機械工業の新展開(2)—FA 機器市場の特性(産業用ロボット市場を中心に)—」, 『ベンチャーフォーラム』 研究開発型企業育成センター, 45号, 1986年12月
- 中小機械工業の新展開(3)—地域別にみた機械工業展開の特質—」, 『ベンチャーフォーラム』 研究開発型企業育成センター, 46号, 1987年1月
- 中小機械工業の新展開(4)—円高とわが国機械工業の行方—」, 『ベンチャーフォーラム』 研究開発型企業育成センター, 47号, 1987年2月
- 中小機械工業の新展開(5)—技術革新下における企業経営のあり方—」, 『ベンチャーフォーラム』 研究開発型企業育成センター, 48号, 1987年3月
- 「東京埋立地工業団地の中小機械工業」, 『早稲田商学』 第340号, 1990年7月
- 「城南・城北・多摩地域の中小機械工業と地域産業振興戦略」, 『経済と労働』 東京都労働経済局, 1990年12月
- 「中小機械工業におけるコア技術の進化とその跋行性」, 『商工金融』 商工総合研究所, 第41巻第1号, 1991年1月
- 「中小機械工業の技術変化—加工機能別分析—」(調査), 『調査季報』 国民金融公庫総合研究所, 第23号, 1992年11月
- 「変わる生産システムの構図—「中小機械工業の技術変化に関する実態調査」から—」, 『国民金融公庫 調査月報』 国民金融公庫総合研究所, 1992年12月
- 「中小工業の構造分析—アンケート調査による加工機能別分析—」, 『早稲田商学』 第358号, 1993年9月
- 「中小工業にとっての「構造変化」と「国際化」」, 『経済と労働 '94 経済特集Ⅱ』 東京都労働経済局, 1994年3月
- 「創業不足と創業支援」, 『経済と労働 '94 経済特集Ⅱ』 東京都労働経済局, 1994年3月
- 「「枠」にとらわれず自在な展開を」, 『中小企業公庫月報』 中小企業金融公庫調査部,

1995年12月号

「これからの中小企業と企業家精神」, 『商工金融』 商工総合研究所, 1997年1月号

「ものづくりの原点回帰の重要性」, 『中小企業公庫月報』 中小企業金融公庫調査部,  
1997年2月号

「町工場と経営者」, 『政策情報かわさき』 川崎市総合企画局都市政策部, 1998年第4号

「工場に思想あり」, 『中小公庫マンスリー』 中小企業金融公庫, 1999年7月号

「高齢化と産業集積」(巻頭言), 『東京都労働経済局月報』 東京都労働経済局, 2000年  
8月号

「中小企業随想録(1)～(139)」, 『ものづくり共和国メールマガジン』, 2000年12月号  
～2012年7月号まで毎月連載

「身体で考える人達」, 『中小公庫マンスリー』 2001年8, 9月号

「地域経済の改革とは」, 『常陽アーク』 常陽地域研究センター, 2001年9月号

「高校生ものづくりコンテスト全国大会を見て」, 『工業教育』 全国工業高等学校校長協  
会, 第38巻第226号, 2002年11月

「技能と技術で生きる小規模企業」, 『日本機械学会誌』, 2004年6月号

「働き続ける人達—老いて衰えず—」, 『中小公庫マンスリー』, 2004年7月号

「技能から創造力への展開—再構築のコアは生業—」, 『常陽アーク』 常陽地域研究セン  
ター, 2004年8月号

「地域社会から産業力を考える」, 『常陽アーク』 常陽地域研究センター, 2005年10月号

「生業の光景(1) 設計図のいない世界」, 『国民生活金融公庫調査月報』 国民生活金融  
公庫総合研究所, 2005年10月号

「生業の光景(2) 米倉庫で創業・田圃で操業」, 『国民生活金融公庫調査月報』 国民生活  
金融公庫総合研究所, 2005年11月号

「生業の光景(3) 燕のバフ研磨職人」, 『国民生活金融公庫調査月報』 国民生活金融公庫  
総合研究所, 2005年12月号

「生業の光景(4) 喜寿を超えた現役達」, 『国民生活金融公庫調査月報』 国民生活金融公  
庫総合研究所, 2006年1月号

「生業の光景(5) 春の日の花と輝く」, 『国民生活金融公庫調査月報』 国民生活金融公庫  
総合研究所, 2006年2月号

- 「生業の光景(6) 地域がくれる生業の活力」, 『国民生活金融公庫調査月報』国民生活金融公庫総合研究所, 2006年3月号
- 「宇都宮地域における産業振興の課題」, 『宇都宮まちづくり論集(Ⅱ)』うつのみや市政研究センター, 2006年3月
- 「身の丈の稼ぎで生きる人達」, 『中小商工業研究』中小商工業研究所, 2006年4月, 第87号
- 「中小企業における「ものづくり」に関する考察」, 『バルブ技法』日本バルブ工業会, 2006年9月
- 「ものづくりと教育」, 『工業教育資料』実教出版, 2006年9月
- 「地域社会に生きる生業」, 『信用金庫』全国信用金庫協会, 2006年10月
- 「地域社会の小規模企業がものづくりを支える」, 『一橋ビジネスレビュー』, 2007年SUM.55巻1号
- 「ものづくり集積地域における若手の人材育成を考える」, 『IMFJC』金属労協, 2007年冬号
- 「工芸は工業の出発点」, 『信用金庫』全国信用金庫協会, 2008年1月
- 「ものづくりに生きる町工場」, 『信用保険月報』中小企業金融公庫, 2008年2月
- 「経済混乱期における中小企業」, 『常陽アーク』常陽地域研究センター, 2009年6月
- 「モノづくりの光景」日刊工業新聞, 2009年6月15日版より2010年3月まで毎週月曜日連載
- 「技能と技術で生きる中小企業」(講演抄録), 『高崎経済大学論集』第58巻, 第4号, 2016年3月
- 「事業継承の記憶」(巻頭言), 『商工金融』商工総合研究所, 2018年10月号

## 翻訳

M. A. バーンスタイン 『アメリカ大不況』(共訳), サイマル出版会, 1991年5月

## 社会貢献

1995年～2018年, 大田区優工場審査委員長として大田区の中小製造業を調査分析して特に優秀と認められる工場を優工場として認定・表彰する事業に携わる。

1997年～2011年、川崎市かわさきマイスター選考委員（2006年から委員長）

1998年～2005年、川崎市地域ものづくり協議会会長としてのづくりにおける人材育成の方策等について検討および施策の実施。

1999年～2018年、台東区産業助成金審査委員会委員長として中小企業に対する助成金交付事業の審査を実施。

2002年～2018年、NPO法人ものづくり品川宿理事長として品川区内の中小企業を支援。

2003年、中小企業庁下請改善講習運営委員会委員長として下請代金支払遅延等防止法の改正案について審議。

2004年～2018年、ジュニアマイスター顕彰認定委員会委員長（全国工業高等学校校長協会主催）として、全国の工業高校等の高校生が各種の国家資格や検定を取得した場合にジュニアマイスターの称号を授与する事業に携わる。

2005年～2018年、川崎ものづくりブランド推進協議会、企画委員会委員長として川崎市の優秀な中小企業の開発した製品についての審査認定等に従事。

2005年～2015年、東京都中小企業振興公社助成事業審査会委員として東京都の中小企業に対する助成金を審査。

2005年～2018年、TASKプロジェクト推進委員会委員長としてTASK地域（台東区、荒川区、足立区、墨田区、葛飾区）の中小企業が地域・業種を超えて連携して活性化するためのプロジェクトを推進。

2005年～2010年、北区未来を拓くものづくり表彰事業の委員長として北区の優秀な企業の調査分析と選考・表彰を行う。

2006年～2007年、北区産業活性化ビジョン検討委員会委員長として区内中小企業を活性化するためのビジョンをとりまとめる。

2007年～2018年、葛飾ブランド認定委員会委員長として区内の優秀な企業とその製品について調査・分析して認定・表彰を実施。

2010年～2018年、北区きらりと光るものづくり顕彰の委員長として北区の優秀な中小企業と熟練技能者を調査分析し選考・表彰する事業を行う。

2014年～2018年、関東経済産業局創業支援事業計画認定評価委員会委員長として関東経済産業局管内の市区町村の創業支援事業計画を評価認定。

2016年～2017年、北区産業活性化ビジョン検討委員会委員長として区内中小企業活性化のためのビジョンをとりまとめる。

2010年～2018年、東京商工会議所「勇気ある経営大賞」選考委員、ワーキンググループ座長として東京の優秀な中小企業を選考・審査。

2018年、東京都の中小企業振興を考える有識者会議座長として東京都の中小企業振興のためのビジョンをとりまとめる。

横山 将義

#### 付記

業績のとりまとめにあたって里見泰啓氏（事業創造大学院大学事業創造研究科准教授）の協力を得ました。